給食で地産地消を学ぶ

10月30日、山岡小学校で同校５年生39人が山岡野菜生産組合（勝川哲老組合長）との交流事業を行いました。同校では、特別活動で「地産地消」を学んでおり、この日は実際に給食に使われている野菜の作り方を生産者から伺うとともに、市の栄養士などから、安心・安全な野菜について学びました。

児童は「安心・安全な野菜を一生懸命作ってくれているので、これからも給食は残さず大事に食べようと思います」と感想を述べました。

▲野菜たっぷりの給食を生産者とおいしそうに味わう児童

地域懇談会で意見を聞く

▲大井町の地域懇談会での様子（大井小学校体育館）

市内13地域で10月３日から28日に、地域懇談会が開催され、1,458人の参加がありました。この懇談会は、市政や地域での課題、地域自治区でのまちづくりの取り組みなど、市民と行政が一体となり、まちづくりを考えていく目的で実施しています。今回は行政から総合計画や行革の状況、市民意識調査の報告を行った後、活発な意見が交わされました。

（地域懇談会の議事録などは、市ホームページでご覧いただけます。http://www.city.ena.lg.jp/）

認知症の正しい理解を

現在、85歳以上で４人に１人が認知症といわれています。その認知症の予防法や治療法、地域ではどのように接していけばいいのかなど、認知症の理解を深める介護保険シンポジウムが、11月１日、恵那文化センターで行われました。シンポジウムでは東京都老人総合研究所認知症介入研究グループ研究部長の本間昭さんが講演を行い、「認知症は早期発見が重要、そのために正しい理解が大切」などと、集まった約650人の聴衆に話しました。

▲講演をする本間さん

恵那病院の仕事を体験

▲療法士から器具の説明を受け、熱心に聞く生徒

10月29日から３日間、市立恵那病院では、職場体験学習として恵那東中学校２年生６人を受け入れ、病院内の薬剤室や検査室などの見学や、リハビリテーションの体験などを行いました。

これは、同校の２年生162人が、市内のさまざまな企業などで職場体験をする学習の一環で行われ、参加した生徒の一人は、「療法士さんが、患者さんとコミュニケーションをとりながら、楽しそうに接している姿が印象的でした」と話しました。

史上最高記録7,800グラム

11月３日、串原で恒例の全国ヘボの巣コンテストが開催され、約2,200人の観光客らが来場しました。

この大会には県内外から愛好家が集まり、巣箱で飼育した自慢のヘボの巣を出品します。

コンテストは、ビニールハウスの中で巣を取り出し、計量して巣の重さを競います。大会には、約150の巣が出品され、長野県阿南町の金田純夫さんが7,800㌘というコンテスト史上最高記録でグランプリを獲得しました。

▲防護服を着て巣を取り出すスタッフ

達原の紅葉の中を歩く

▲赤く染まり始めた達原の秋を楽しみながら歩く参加者

上矢作町の達原地区で、11月２日、福寿の里スポーツクラブによる「ウオーキングin達原渓谷」が開催され、約60人が参加しました。コースは、同地区の「のどの滝」から長野県平谷村の平谷温泉「ひまわりの湯」までの約６㌔を２時間かけて歩くもの。

この日は天気にも恵まれ、参加者たちは渓谷沿いの美しい紅葉を眺めながら「天気もいいし、紅葉もきれい。温泉と食事にも満足」と楽しそうに話し、上矢作のさわやかな秋を存分に満喫しました。

理解してあげることが重要

子どもの発達を考える講演会が、11月３日に岩村公民館で開催されました。講師は児童精神科医で有名な川崎医療福祉大学特任教授の佐々木正美さん。

佐々木教授は講演で「自閉症や発達障がい児を理解してあげることが重要」「理解した上で接してあげなければ、二次的な情緒障がいは予防できない」などと話し、保育園や学校、福祉施設など、子どもたちに接する機会の多い参加者約200人は、熱心にメモを取りながら聞き入っていました。

▲講演をする児童精神科医の佐々木教授

歴史を楽しむウオーキング

▲岩村城跡の出丸に設置したイベント会場で楽しむ参加者

秋空の下、11月２日、岩村町の歴史的な町並みを通り、岩村城跡へ行く「発掘！岩村城跡と歴史的まちなみウォーキング」が、親子連れなど約470人の参加により、盛大に行われました。

参加者は14のチェックポイントを回り、ゴールの岩村城跡を目指しました。１日だけ復元された「一の門」や、本丸での発掘調査現場の見学と説明、ゴールのイベント会場での抽選会など、参加者は歩いて、見て、学んで、楽しみました。

笠置町の保存食「ゆず釜」

恵那の味・伝承講座で「ゆず釜作り」が11月12日、アグリパーク恵那開かれ、13人が参加しました。今回は、笠置町の農業女性団体「ふれあいハーモニー」から、市川文江さんと原知子さんを講師に迎え、ユズの皮を破らないように中身をくり抜くことや、混ぜ合わせたみそに空気が入らないようにすることなどを受講生らに伝え、ごはんのおかずやおやつ、おつまみとして食されている笠置町の伝統保存食、通称「ゆべし」を一つ一つ丁寧に作りました。

▲くり抜いたユズにみそを丁寧に入れる受講生たち

災害時に迅速な連携を

▲転落車両からの救出作業を行う隊員たち

愛知県で大規模災害が発生し、県緊急援助隊出動要請を想定した訓練が11月５日、阿木川ダム建設発生土受入地（岩村町）で行われました。この日、東濃ブロック５市から隊員や医師など105人、緊急車両14台が出動。訓練は、倒壊家屋や転落車両からの救出、救急隊による応急措置と病院搬送の連携確認、林野火災を想定したヘリコプターによる空中消火が行われ、緊迫した空気の中、隊員らは迅速な連携と救命活動を確認しました。

子ども歌舞伎に拍手喝采

11月16日、東野小学校体育館で東野歌舞伎公演が行われました。

この公演には、地元の歌舞伎保存会や小学生らが参加し、「仮名手本忠臣蔵」や「白浪五人男」などが披露されました。子どもたちは７月から保存会の方から指導を受け、練習を重ねてきました。

当日は、約250人の観客が訪れ、子どもたちの演技に客席からは、大きな声援と拍手が送られ、たくさんのおひねりが投げ込まれました。

▲子どもたちが演じる白浪五人男の一幕

福寿の里で秋のひととき

▲「飲酒運手は絶対ダメ！」交通安全活動をする郷土戦隊

第16回「福寿まつり」が、11月９日に上矢作公民館周辺で開催されました。当日は12月中旬を思わせるような肌寒さと曇り空の中、町内外からたくさんの方が訪れました。

ステージイベントでは、正義と郷土を守るわれらのヒーロー「郷土戦隊」や、福寿太鼓、横道獅子舞など披露。そのほか食欲の秋を満喫できる「うまいもの横丁」や、「掘り出し物市場」なども大盛況で、参加者は秋のひとときを楽しく過ごしていました。

中山道広重美術館
展覧会

■会期
12/3㈬～1/18㈰
■開館時間　午前９時半～午後５時（入館は午後４時半まで）
■観覧料　▷**大人**＝500円（団体400円）　▷**小・中・高校生**＝300円（団体240円）
毎週月曜日（祝日を除く）、祝日の翌日（土日・祝日を除く）休館。12/１㈪・２日㈫は展示替え。12/24㈬～１/３㈯は年末年始のため休館。ただし１/２日㈮は年始特別開館とし、観覧無料となります。
■問い合わせ　中山道広重美術館☎20-0522

「楽しい浮世絵」

歌川広重
「即興かげぼしつくし　まつたけ」
中判錦絵二丁掛のうち
1839～42（天保10～13）年
田中コレクション

「即興かげぼしつくし」は広重の代表的な戯画（ぎが）シリーズの一つ。画面は左右に分けられており、一方には障子に映った影を、もう一方には、その影を作るための手や体の格好など種明かしを描いています。

※小中学生・高校生は、冬休み期間中観覧無料です

12月７日は市民の日

毎月第１日曜日は「市民の日」とし、市民に限り観覧を無料としています。気軽に美術の世界に触れていただき、美術を中心とする文化活動やまちづくり活動の拠点に活用いただけるよう、願っています。

文化財を巡る

⑦発掘調査だより

◎江戸時代の大規模な造成を確認！

10月中旬から11月中旬まで、岩村城本丸の発掘調査を行いました。城がいつ造られたのか、どのような経過を経て今の城の姿になったのか、廃城後、今日までどの程度城に手が加えられているのかを調べるのが主な目的で、今後数年かけて少しずつあちこちを調査する予定です。

ことしは本丸から長局にかけて東西に幅２㍍、延長約48.5㍍の調査区を設け、表土から山の地盤まで土層を１枚１枚掘り下げていきました。その結果、山の地盤は西から東へ徐々に低くなり、東多門櫓（ひがしたもんやぐら）の手前で急に下がっていること、長局（ながつぼね）は、戦国時代の城跡を地盤まで削った土で斜面を２㍍以上埋め立てて造られ、さらにその上に石垣を積んで東多門櫓の敷地を造っていることが分かりました。また東多門櫓には、建物の妻側の柱を支えた石列が残っていました。

◎岩村城と石造物を語る会を開催

織豊期（しょくほうき）城郭研究会会員を講師に、12月14日㈰午後６時から、岩村振興事務所２階大会議室で開催します。お気軽にご参加ください。（参加費無料）

◎石垣カルテづくりの調査ボランティア募集！

城下町ホットいわむらでは、教育委員会が12月から計画している岩村城跡の石垣カルテづくりに参加できる方を募集しています。大学生以上で山歩きが可能な健康な方ならどなたでもＯＫ。平日に１日以上参加できる方。参加日は申し込み後に調整します。

□問い合わせ　文化課☎43-2112（内線217）

▲東多門櫓の石垣と石列。記録を取って埋め戻しました